全国シルクのまち情報誌

知・る・く

平成２７年３月

No.6

小手姫様（福島県川俣町）

「丹後きものまつり in 天橋立」（京都府宮津市）

「本場大島紬クィーン」（鹿児島県鹿児島市）

シルクのまちづくり市区町村協議会

情報誌の名称の『知・る・く』は、「シルク」の事を「知る」、「シルク」の街を「歩く」という意味が込められており、３つのフレーズを融合させた造語です。

「知」の「口」部分は絹糸をイメージ。同時にシルクの無限大（∞）の可能性も表現しています。「く」の下部には靴をあしらい、街を歩くイメージと協議会の前進の意味を込めました。

No.6>>>Contents

●国のプロジェクトのご紹介／「絹のみち広域連携プロジェクト」

（１）経済産業省関東経済産業局…… 1

●わがまちのシルクPR隊のご紹介

（１）小手姫様（福島県川俣町）…… 7

（２）小山市職員着付け隊（栃木県小山市）…… 12

（３）本場大島紬クィーン（鹿児島県鹿児島市）…… 13

●産地ブランドマークのご紹介

（１）小千谷織物之証（新潟県小千谷市）…… 15

（２）丹後織物ブランドマーク（京都府京丹後市・与謝野町）…… 16

（３）本場大島紬織物協同組合登録商標（鹿児島県鹿児島市）…… 17

●会員自治体の情報（シルクに関わるイベントや取り組みなど）

（１）栃木県小山市 …… 18

（２）長野県駒ケ根市…… 19

（３）京都府宮津市 …… 21

《参考資料》

シルクのまちづくり市区町村協議会・構成員一覧 …… 22

シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣意書 …… 23

国のプロジェクトのご紹介

経済産業省関東経済産業局で、平成 26 年度から取り組まれている「絹のみち広域連携プロジェクト」についてご紹介をいたします。

「絹のみち広域連携プロジェクト」
キックオフ会議、絹のみちの祭典を開催して

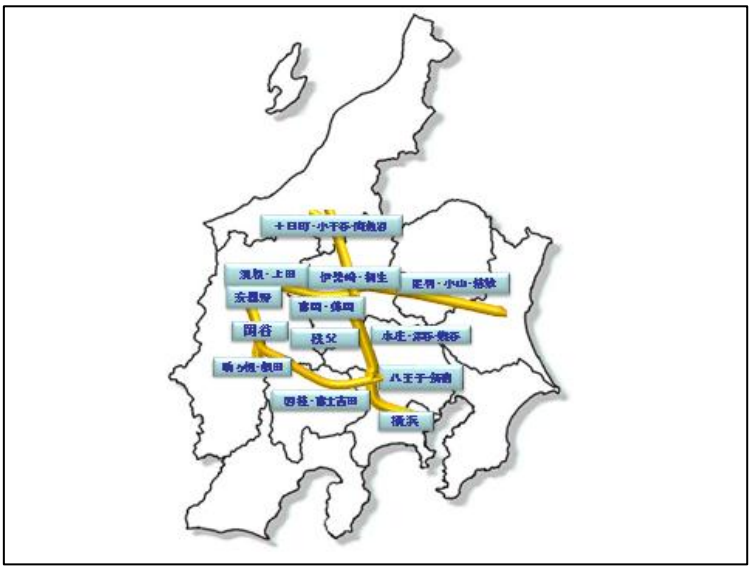
経済産業省関東経済産業局
産業部流通・サービス産業課

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を契機に、日本の「絹」製品をはじめ、絹に関する伝統技術・匠の技、絹関連地域に対して、国内外からの注目が集まりつつあります。

地域に目を転じてみると、絹産業を支えてきた事業者や地域の関係者がこれを追い風ととらえ新しい商品づくりや観光サービスの開発に積極的に取り組み始めています。

関東経済産業局は、かかる状況を踏まえ、絹関連地域において、高付加価値製品の開発・販売などに奮闘しているやる気のある事業者、研究機関、自治体など、熱き想いを共有する関係者が連携し、知恵を絞り、地域の魅力を発信する「絹のみち広域連携プロジェクト」を平成２６年８月に立ち上げました。

今回は、本プロジェクトとして実施した２つのイベントについて概要を紹介します。



絹のみち広域連携プロジェクト（イメージ図）

１.「絹のみち広域連携プロジェクト」キックオフ会議（群馬県富岡市）

「絹のみち広域連携プロジェクト」キックオフ会議は、関東経済産業局、群馬県の主催により、平成２６年１２月１７日（水）に富岡製糸場において開催しました。富岡製糸場一般公開から来場者３００万人を達成した当日、国宝に指定された東繭倉庫（東置繭所）の会場へ、自治体、支援機関、絹に関連・関心のある事業者等約２００名の皆さまにご来場いただきました。

富岡製糸場

キックオフ会議の全景

冒頭、安藤久佳関東経済産業局長から、今回のプロジェクトについて、国内外に絹をはじめとした地域資源を活用した地域ブランド商品や地域の歴史・文化の情報を広く発信するとともに、点から線、線から面へと連携による相乗効果を高め、地域経済の活性化を進めていく旨の挨拶がありました。また、岩井賢太郎富岡市長から、会議開催の御礼を含め、世界遺産となった富岡製糸場について、絹に関連するしっかりとした取組を行うため「富岡シルクブランド協議会」を立ち上げた旨の挨拶がありました。

安藤久佳関東経済産業局長

岩井賢太郎富岡市長

続いて、イントロダクション（世界遺産最新レポート）として松浦利隆群馬県企画部世界遺産課長から、関係省庁プレゼンテーションとして渡辺豊関東経済産業局産業部長、末松広行関東農政局長、鈴木史朗関東運輸局企画観光部長から、それぞれ発表がありました。

富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録への道のりや、絹のみち広域連携プロジェクトに期待すること、近代日本の礎を築いた蚕糸業のこと、関東学生「インバウンド広域観光周遊ルート」旅行企画コンテストと、絹を切り口に過去の歴史を踏まえこれからに向かっての様々な取組が披露されました。

「『絹』に関連する我が地域が誇るふるさと産品と観光資源」を統一テーマとした関係自治体等によるプレゼンテーションは、それぞれの地域や特色を表したものとなり、会場は大いに盛り上がりました。小山市、桐生市、藤岡市、富岡市、熊谷市、秩父市、八王子市、横浜市、岡谷市、須坂市、駒ヶ根市、足利市（発表順）の各市が、ご当地の着物を着用したり、ＰＲのための動画を用いたり、市内の絹産業遺産・絹関連製品を紹介したりと、様々な趣向を凝らした発表を行うことで、関係者の関心も高まり今後の連携と発展の可能性を感じさせる内容となりました。吉川浩民群馬県副知事による、世界遺産効果を一過性のものにしないための施策についての挨拶、次回イベント開催地である中田富雄岡谷市副市長の挨拶も相まって、盛況の中で会議は終了いたしました。

なお、会議開始前の富岡製糸場見学ツアー、会議終了後のキックオフ交流会、翌日の絹産業遺産群等見学ツアーによって、参加者の交流はさらに深まるプログラムとなりました。

自治体プレゼンテーション（足利市）

自治体プレゼンテーション（小山市）

２.「絹のみち広域連携プロジェクト」絹のみちの祭典（長野県岡谷市）

（１）絹のみち大交流展（ブース展示・交流）

絹のみち大交流展（ブース展示・交流）は、平成２７年１月３０日（金）に岡谷市文化会館カノラホールにおいて開催しました。

祭典は、グランドロビーの階段踊り場におけるオープニングセレモニーで幕を開けました。安藤久佳関東経済産業局長、今井竜五岡谷市長、片倉康行片倉興産株式会社代表取締役社長からの挨拶の後、テープカットが執り行われました。関東経済産業局、片倉興産、岡谷市、秩父市、須坂市、駒ヶ根市、富士吉田市、長野県、関東農政局、北陸信越運輸局の代表者の参列により、広く本プロジェクトの連携についてアピールできるものとなりました。

その後のブース展示では、絹関連事業者等１７者が、織物、化粧品、研究機関等分野別

に展示を行いました。着物を着用した出展者もいる中、和装のみならず、財布、ストール、ネクタイ、スカーフ、白生地、傘、化粧品等々、様々な製品や素材、研究成果で会場は彩られました。来場された絹関連事業者、自治体、支援機関・団体等の関係者、一般来場者の皆さまが各ブースで出展者の説明を聞いたり、質問をしたり、製品を触ったりと思い思いに交流を深めている姿が見て取れました。また、ブース出展者間でも積極的な交流が見られ、会社訪問の約束を取り付けるなど今後の連携が期待される内容となりました。

オープニングセレモニー

ブース展示会場の全景

加えて、小ホールでは、甘楽富岡地域集落活性化協議会主催による同時開催の関連シンポジウム「新シルクロードへの創造～食・デザイン・観光～」が実施されました。長島孝行東京農業大学農学部教授による基調講演、パネルディスカッション等の内容で、それぞれの地域の特徴を活かし、今あるものをうまく魅せて、わくわくするような仕掛けが必要といった長島教授のお話には、多くの参加者が聞き入っていました。

なお、３００名余の参加者のうち、交流会にも７４名が出席し、さらに交流を深める結果となりましたこと、申し添えます。

（２）岡谷蚕糸博物館見学ツアー、広域連携ネットワーク会議

翌１月３１日（土）の午前中には、岡谷蚕糸博物館見学ツアーを行いました。高林千幸岡谷蚕糸博物館長の説明を聞きながら、７４名の参加者が、創業当時の官営富岡製糸場で稼動し、唯一残されているフランス式繰糸機や、当時の写真などを見学しました。特に参加者の関心が高かったのは、博物館内に存在する株式会社宮坂製糸所の実稼働で、目の前で人の手で行われる製糸の様子を食い入るように見つめる姿が印象的でした。

「絹のみち広域連携プロジェクト」

雪の中の岡谷蚕糸博物館

フランス式繰糸機実演

午後からは、岡谷商工会議所を会場に、広域連携ネットワーク会議を開催しました。１２１名の参加者により会場は満席で、熱気溢れる会議となりました。

渡辺豊関東経済産業局産業部長、中田富雄岡谷市副市長の挨拶で始まったネットワーク会議は、続いて絹関連事業者等１０者によるプレゼンテーションが行われました。各事業者等の製品・技術の強みや今後の取組方針等、自らの取組を伝えつつ他者との連携に向けた発表で、会場内の参加者から様々な関心が向けられました。

専門家プレゼンテーションは、岡田茂樹鶴岡 kibiso プロジェクトプロデューサー、鈴木淳台東デザイナーズビレッジインキュベーションマネージャーから行われました。岡田氏の「自分とパートナーの得意分野を持ち寄って、何を作り、どういうブランドで、どういった消費者に向けて、どんな価格帯で、どんなチャンネルでＰＲしていくかを明確にしなくてはならない」、鈴木氏の「今、脚光を浴びているオープンファクトリーの取組は、業種の垣根を越えて連携してやっている。モノにまつわる思いをＰＲして、モノに対するファンをつくることが大切」といった話は、参加者にとって大いに刺激となりました。

最後に、関東経済産業局からの施策説明、大熊章産業部次長からやる気と連携についての強いメッセージがあり、それを受けた会場の皆さまの盛り上がりをもって会議は終了し、その後の名刺交換会でも積極的な交流が行われました。

渡辺豊関東経済産業局産業部長

広域連携ネットワーク会議の様子

「絹のみち広域連携プロジェクト」

「絹のみち広域連携プロジェクト」では、今後もイベントを含め様々なプロジェクト展開を進め、やる気のある方々の取組を支援していく予定です。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜本件お問い合わせ先＞
経済産業省関東経済産業局産業部流通・サービス産業課
担当：和田、池嶋
ＴＥＬ：０４８－６００－０３４６
ＵＲＬ：http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sightseeing/kinu-no-michi_project.html
（絹のみち広域連携プロジェクト）

“わがまちのシルクＰＲ隊”

シルクのまちづくり市区町村協議会では、会員自治体内で、シルクのまちづくりに関するＰＲを行っている方々を“わがまちのシルクＰＲ隊”としてご紹介しています。今回は、福島県川俣町「小手姫様」、栃木県小山市「小山市職員着付け隊」、鹿児島県鹿児島市「本場大島紬クィーン」についてご紹介をいたします。

小手姫様（福島県川俣町）

こんにちは。福島県は川俣町のシルクＰＲ隊を紹介します。はたして“ＰＲ隊”と言って良いものか分かりませんが、一味違った川俣町ならではのゆるキャラ≪小手姫様≫をご紹介いたします。

まずは少々堅苦しいですが、そもそもの≪小手姫様≫は公式に言いますとこんな感じです。

・・・

人々に教えたと伝えられています。
これが、「絹の里」川俣町のルーツですが、真偽のほどはともかく、平安時代には「安達絹」の名称で川俣町の絹織物が、書物に登場しており、古くからの隆盛のほどがしのばれます。

・・・

わがまちのシルクＰＲ隊

【シャモまつりにて】

ついでに伝説上の人物がゆるキャラ化されたあたりを川俣町役場職員さんに訊いてみましょう？

質 問 者：どんな理由でいつ頃ゆるキャラ化されたのですか？

役場職員：着ぐるみとしてのゆるキャラになるおよそ２０年前、イベント用のスタッフジャンパーの図案を依頼された職員がイラストを作成しました。それが昨年（平成２６年初頭）、産業課で急遽「野菜が合体したようなゆるキャラ」を作成しようとしたところ、あれよあれよという間に「もともとうちの町にはゆるキャラあったよな」ってことになり、≪小手姫様≫となりました。

質 問 者：ゆるキャラなのになぜ「様」なのですか？

役場職員：本当の名前は大伴小手子（おおとものおてこ）姫です。この姫が川俣町（旧小手郷）に避難してきたときに、養蚕と絹織物を伝え、町を豊かにしたため、われわれは愛着と尊敬の念を持ってゆるキャラであろうとも「様」とつけているのです。

質 問 者：川俣町では≪小手姫様≫はゆるキャラの他何かに使用されていますか？キャラクターグッズとか売っているのですか？

役場職員：イベント用スタッフジャンパー以降、道の駅のスタンプや農業振興公社の商品「桑の葉茶」に描かれたり、商工会が気に行って何かと使っていました。また、図書館のカードの図案に利用されていました。最近では新しくできた子どもの遊び場“おてひめワクワクランド”に大きな小手姫様が描かれました。そこに入るための専用カードにも描かれています。キャラクターグッズはありません。

【おてひめワクワクランド】

質 問 者：今年度はどんな活動をいたしましたか？また来年度の抱負をお願いします。

役場職員：平成２６年４月の『川俣シャモまつりｉｎ四季の里』を皮切りに様々なイベントに呼ばれ、特に福島県は今年度※プレＤＣ（プレ・デスティネーション・キャンペーン）であったため、川俣町のＰＲをしにあちこちに出かけました。平成２７年の４～６月が本番なので、さらに出かけて川俣町の観光と物産、とくに絹織物について宣伝していきたいと思います。機会があればシルクのまちづくりの皆さんのところへも行きたいと思います。

※ＤＣはＪＲと自治体が協力して行うキャンペーンのこと。
本番の一年前にプレＤＣ、一年後にアフターＤＣがあります。

わがまちのシルクＰＲ隊

【コスキン・エン・ハポンのパレードにて】

名称：小手姫様（おてひめさま）
人数：１体
紹介：原型はおよそ２０年前に生まれていましたが、ゆるキャラとしての活動は平成２６年４月からです。色々なところに出ていきたいので呼んで頂ければと思います。
お問い合わせ：福島県川俣町役場産業課の農林係所属
電話：０２４－５６６－２１１１　ファックス０２４－５６６－３１２０
ナビアプリ：指さしナビという川俣町を案内するアプリがあり、≪小手姫様≫がそのキャラクターになっています。スマホで『指さしナビ　川俣町』と入れて取り込んでみてください。動く≪小手姫様≫が見られます。無料です。

“わがまちのシルクＰＲ隊”

小山市職員着付け隊（栃木県小山市）

平成２５年度から、本場結城紬の生産振興と着物に親しみ着物の着用機会を増やすことを目的として、市職員自らが着付けを習い、本場結城紬事業に積極的に参加・協力しております。平成２５年度の１期生、平成２６年度の２期生併せて２９名が、「小山きものの日」や市内の中学生の本場結城紬着心地体験事業などで、習得した技術を発揮しております。

【平成 25 年度 1 期生修了式】

修了式では、修了証を小山市長より一人ひとり受け取りました。修了証を手にし、今後の更なる着付への自己研鑽や協力を心に誓いました。

（下段左から 3 人目）講師：福田悟子先生、隣は小山市長　大久保寿夫

【平成 26 年度 2 期生修了式】

２期生は今年度の新採用職員のうち２名も受講しました。若い方への着物の振興につなげたいと思います。

（下段左から 3 人目）講師：福田悟子先生、隣は小山市長　大久保寿夫

■名称：小山市職員着付け隊
■人数：２９名
■問い合わせ先：着付け隊養成講座事務局
（小山市役所経済部工業振興課内）
TEL：0285-22-9397　FAX：0285-22-9685
E-mail：d-kougyo@city.oyama.tochigi.jp

“わがまちのシルクＰＲ隊”

本場大島紬クィーン（鹿児島県鹿児島市）

○本場大島紬クィーンについて

鹿児島県在住の一般女性の中から募り、年に一度のコンテストで選ばれた、県内外で本場大島紬の PR をお手伝いする 3 名の皆さんです。

「ミス/ミセス大島紬」などを前身とし、平成元年から「本場大島紬クィーン」と改称して、現在の「2015 本場大島紬クィーン」が 25 代目になります。

○平成２６年度の取組み

（１）札幌市でのＰＲ（平成 26 年 11 月 6 日～7 日）

札幌東急百貨店で開催された鹿児島県の物産展において、イベント会場などで地元の方々に本場大島紬のＰＲを行うとともに、札幌市内のホテルで開催された「大島紬着物パーティー」において、本場大島紬を着用した百貨店の呉服の顧客の方々にＰＲを行いました。

（２）産地まつり（平成 26 年 11 月 15 日～16 日）

本場大島紬を県内外の大島紬愛好者の方々にもっと身近に感じてもらうことを目的に開催されました。この中で、本場大島紬クィーンコンテスト最終選考会も行われ、新たなクィーン３名が選出されました。

（３）本場大島紬とかごしまの食を楽しむ夕べ（平成 27 年１月 30 日）

本場大島紬と鹿児島の農林水産物等の普及啓発及び需要拡大を図ることを目的に開催されました。出席者は本場大島紬の着物や小物を着用し、鹿児島県の旬の食材を活かしたディナーショーや、本場大島紬クィーンも出演する本場大島紬ファッションショーが行われました。

■名称：本場大島紬クィーン

■人数：３人

■紹介：「本場大島紬クィーンコンテスト」で選出された 3 名が、県内外で開催されるイベントなどにおいて、本場大島紬の軽い・しわになりにくい・着崩れしないなどの特徴を伝え、染色織物で日本最古の伝統をもつ本場大島紬の魅力を多くの方々に発信しています。

■問い合わせ先：本場大島紬織物協同組合

TEL：099-204-7550　FAX：099-204-7551

E-mail：iwaya@oshimatsumugi.com

HP アドレス：http://oshimatsumugi.com/

産地ブランドマークのご紹介

小千谷織物之証（新潟県小千谷市）

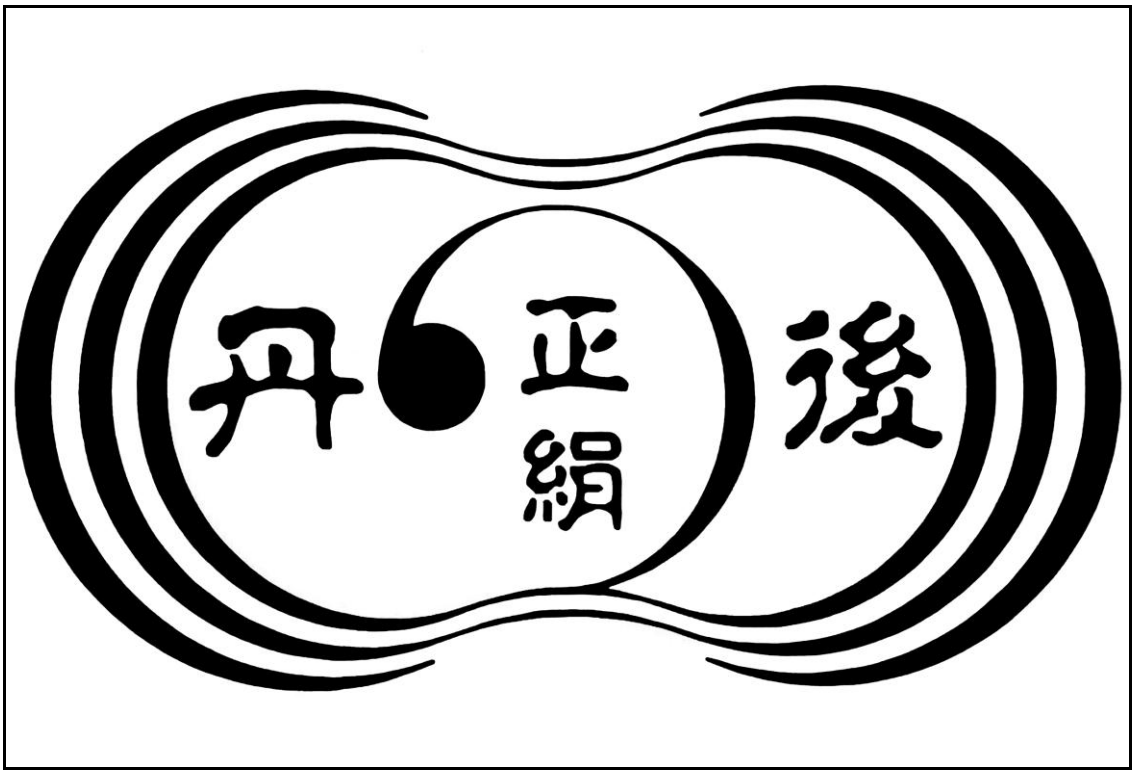
■ブランドマーク名

小千谷織物之証

■ブランドマークの説明

小千谷織物の歴史は、雪降る季節に織られ、雪上にさらして製造されてきた麻織物から始まっています。ブランドマークには雪国で育まれた織物を象徴する雪の結晶がデザインされています。

丹後織物ブランドマーク（京都府京丹後市・与謝野町）



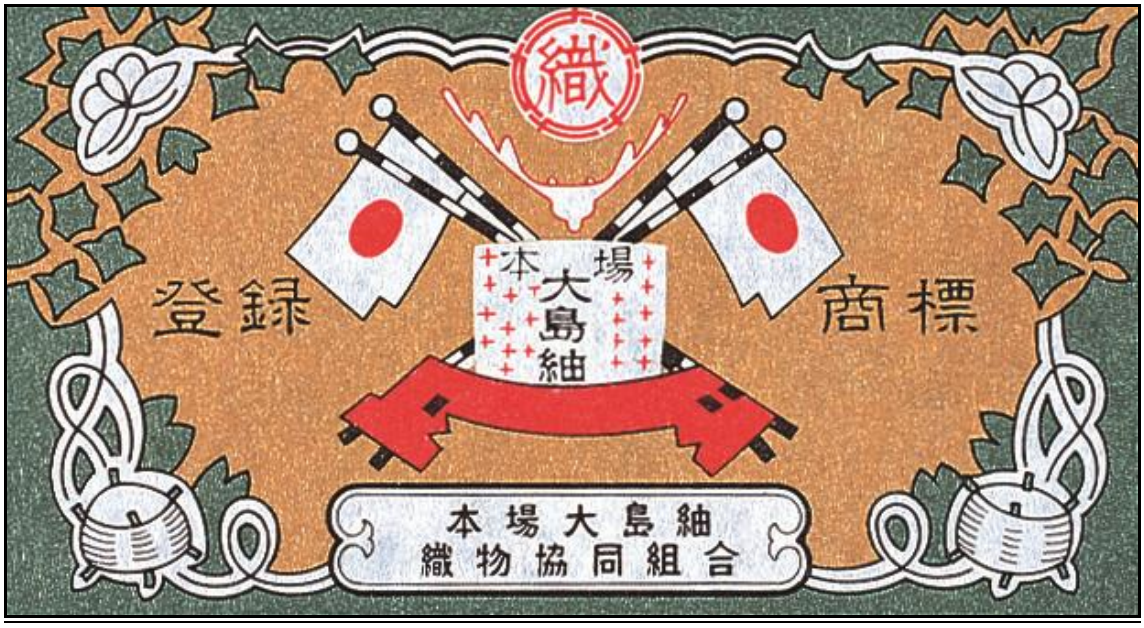
■ブランドマーク名

丹後織物ブランドマーク

■ブランドマークの説明

シルクの象徴である「まゆ」と、丹後ちりめんのしなやかさをイメージしています。

本場大島紬織物協同組合登録商標（鹿児島県鹿児島市）



■ブランドマーク名

本場大島紬織物協同組合登録商標

■ブランドマークの説明

組合のトレードマークである日本国旗を中央に配置し、周囲には、蚕や糸、桑の葉を図案化しています。

栃木県小山市　〒323-8686　小山市中央町１－１－１
http://www.city.oyama.tochigi.jp/

本場結城紬ユネスコ無形文化遺産登録4周年記念事業「小山きものの日」

平成２６年１１月１６日（日）、市の誇る伝統産業であり世界の宝である「本場結城紬」がユネスコ無形文化遺産に登録された１１月１６日に、「小山きものの日」を開催いたしました。８日から１６日までの９日間を「おもてなし Week」と名付け、市内５０店舗の「おもてなしの店」を着物で訪れると店オリジナルの特典がある他、シールを集めて、１６日の「お楽しみ大抽選会」に参加できるという、着物好きの方には恰好の事業となりました。

１６日当日には栃木県本場結城紬織物協同組合、茨城県本場結城紬織物協同組合合同の「本場結城紬展示会」や、「大茶会」、「講演会」、「繭クラフト教室」など、お着物の方にも、お着物をお召しでない方にも楽しんでいただけるイベントを開催しました。

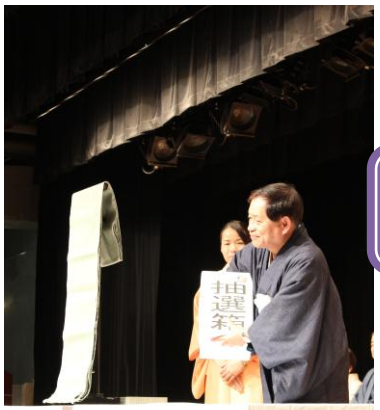
本場結城紬展示会
実演（糸つむぎ・地機織り）

講演会
「若手丹後織物業者の取組」
柴田織物
柴田祐史氏

幸いお天気に恵まれ、市内のおもてなしの店巡りも、足取りは軽やかでした。

おもてなしの店巡り

イベントの最後を飾る、「お楽しみ大抽選会」には、約５００名のお着物の方にお越しいただき、会場は１等の本場結城紬の反物があたることを心待ちに、大盛り上がりでした！



今回企画した、大宮駅発着の「手ぶらで!!本場結城紬着心地体験バスツアー」にご参加の４２名の方にも本場結城紬の着心地を体験いただき、ご満足いただけました。

１等本場結城紬の反物の抽選を引く
実行委員長（小山市長）大久保　寿夫

「きもの」を身近により多くの方に気軽に着ていただけるように、また、今後のシルク関連の様々な産業の発展を願い、今後も世界の「宝」である本場結城紬の振興策に取り組んでいきたいと思います。

【問い合わせ先】
小山市工業振興課結城紬振興担当　TEL:0285-22-9397

駒ケ根シルクミュージアム（長野県駒ヶ根市）

長野県駒ヶ根市にあります駒ヶ根シルクミュージアムでは、養蚕・シルクに関係した特別展を年 3 回開催しております。

春の特別展は、全国のまゆクラフト愛好者の方に作品を公募いただき「まゆクラフト作品展」を行っております。平成 20 年度から公募展を行い、昨年度で 7 回を数えました。平成 27 年度においても 4 月 16 日～5 月 19 日の日程で行います。

春の展示会

夏の特別展は、シルクミュージアム職員が企画を行い、毎年、様々な特別展を行っております。昨年度は栃木県産業技術センター・紬織物技術支援センター・栃木県小山市にご協力いただき、「結城紬展」を開催しました。特別展の内容は現在企画中ですが、平成 27 年度は 7 月 11 日～8 月 18 日（予定）の日程で行います。

夏の特別展

秋の特別展は、手織物に情熱を持っておられる全国の方々から公募いただいている「現代手織物クラフト公募展」を行っております。こちらも春の特別展同様、昨年度で 7 回を数えました。平成 27 年度においても 10 月 15 日～11 月 23 日（予定）の日程で行います。

駒ヶ根シルクミュージアムは、特別展の他に、養蚕文化の歴史等を展示している常設展示やまゆクラフト体験等ができる体験工房があります。
また、農産物直売所やバイキングレストランも併設されております。

秋の特別展

（所在地）〒399-4321　長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地
（電　話）0265-82-8381（ＦＡＸ）0265-82-8380
（Ｅメール）shiruku@cek.ne.jp

開館時間（４～１１月）午前９時～午後５時（展示室最終受付 午後４時 30 分）
冬季時間（１２～３月）午前９時～午後４時３０分（展示室最終受付午後４時）
体験工房　　午前９時～午後３時
休館日　　水曜日（祝日が休館日の場合は開館、翌日休館、年末年始）

丹後きものまつりin天橋立

秋の天橋立の一大イベントである「丹後きものまつり in 天橋立」が、天橋立一帯を舞台に、市内外から 1,100 名の参加者により盛大に開催されました。

このイベントは、普段着用する機会が少なくなった着物の着る機会をつくり、丹後の特産品である「丹後ちりめん」と天橋立観光をＰＲしようと、丹後織物工業組合や行政、地元観光業者等が実行委員会を組織し、例年、10 月の第３日曜日に日本三景の一つ「天橋立」を舞台に開催しているもので、秋の天橋立が色とりどりの着物で彩られます。参加定員は 1,200 名ですが、秋の天橋立は、着物を着るには絶好の気候で、また、観光地である日本三景天橋立が舞台ということもあり、近年ではその数を超える申込をいただく、当地を代表するイベントとなっています。

↑きものファッションショー

→きものパレード

←小物作りワークショップ

開催 15 回目を迎えた今回は、平成 26 年 10 月 19 日（日）に開催し、天候にも恵まれ、地元や京阪神、遠くは関東から 1,100 名に参加いただきました。松並木を着物姿の皆さんが一斉に行進する「きものパレード」のほか、野点や人力車サービス、海外旅行等の豪華景品が当たる大抽選会、丹後ちりめんきものファッションショー、似顔絵や小物作りのワークショップ等を楽しまれるとともに、秋晴れの天橋立一帯の散策を満喫されました。

参加者は、友人、家族、カップルなどさまざまで、お互いに写真を撮りあったりしながら思い思いの秋の楽しい１日を過ごしていただき、着物の良さについても再認識していただけた１日となりました。

シルクのまちづくり市区町村協議会・構成団体等一覧

（平成 27 年 3 月 31 日現在）

■会員（２６団体）

1	山形県鶴岡市	10	新潟県十日町市	19	京都府京都市
2	山形県長井市	11	新潟県小千谷市	20	京都府宮津市
3	山形県白鷹町	12	新潟県南魚沼市	21	京都府京丹後市
4	福島県川俣町	13	石川県金沢市	22	京都府与謝野町
5	茨城県結城市	14	山梨県富士吉田市	23	愛媛県西予市
6	栃木県足利市	15	山梨県西桂町	24	鹿児島県鹿児島市
7	栃木県小山市	16	長野県岡谷市	25	鹿児島県奄美市
8	群馬県富岡市	17	長野県駒ヶ根市	26	鹿児島県龍郷町
9	東京都新宿区	18	滋賀県長浜市		

◇役員

会　長　京都府京丹後市（市長　中山　泰）

副会長　山形県鶴岡市・福島県川俣町・群馬県富岡市・石川県金沢市・長野県岡谷市・京都府与謝野町・愛媛県西予市

監　事　山梨県西桂町・京都府宮津市

■特別会員［オブザーバー］（６名）

農林水産省生産局農産部地域作物課長
経済産業省製造産業局繊維課長
経済産業省商務情報政策局伝統的工芸品産業室長
経済産業省商務情報政策局生活文化創造産業課長
経済産業省中小企業庁経営支援部新事業促進課長
経済産業省関東経済産業局産業部流通・サービス産業課長

■顧問（１１名）

◎ファッションジャーナリスト

清水　早苗氏　　ジャーナリスト／クリエイティブ・ディレクター

◎クリエーションコーディネーター

松田　正夫氏　　繊維・未来塾　塾長／（株）大阪繊維リソースセンター特任顧問
岡田　茂樹氏　　鶴岡 kibiso プロデューサー／元東京ファッションデザイナー協会議長

◎テキスタイルデザイナー

須藤　玲子氏　　株式会社布取締役
酒井　美和子氏　　（有）GBカンパニー代表取締役
福井　健二氏　　K.FUKUI PERSONAL OFFICE&EA 主宰
永森　達昌氏　　オフィス・ナガモリ代表

◎和装

早坂　伊織氏　　着物伝承家
笹島　寿美氏　　着装コーディネーター・帯研究家

◎研究機関

玉田　靖氏　　信州大学繊維学部　教授
長島　孝行氏　　東京農業大学　農学部農学科　教授（農学博士）

■協賛団体（２５団体）

◎蚕糸団体

（財）大日本蚕糸会,（社）日本生糸問屋協会,中央蚕糸協会,碓氷製糸農業協同組合,蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

◎産地織物組合

鶴岡織物工業協同組合,福島県絹人繊織物構造改善工業組合,小千谷織物同業協同組合,山梨県絹人繊織物工業組合,滋賀県絹人繊織物工業組合,丹後織物工業組合,本場大島紬織物協同組合,本場奄美大島紬協同組合

◎絹業団体

全国染色協同組合連合会,全国染織連合会,京友禅協同組合連合会,京都工芸染匠協同組合,日本織物中央卸商業組合連合会,(社)全日本きもの振興会,（社）全日本きものコンサルタント協会,(財)シルクセンター国際貿易観光会館（シルク博物館）,東京ネクタイ協同組合,日本繊維輸入組合,新宿区染色協議会

◎その他団体　　GS 世代研究会

シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣旨

古来よりわが国に伝わる尊い宝、絹。

絹を用いる産業、すなわちシルク産業は、地域経済の中で重要な役割を果たし、地域の生活や風土に根付いた産業として我々の地域とともに発展してきました。同時に、悠久の歴史の中でこれら産業が培った技術により生み出される製品は、地域文化を育むと同時に、わが国文化の根幹に大きく関わり、地域の価値や日本の品格を伝えるものとして、産業・文化の両面で貢献しています。

ところが、社会・生活環境が急激に変化する中で、現在では資源の枯渇化や人材の不足、市場の縮小による需要減少など、地域のシルク産業の発展に支障が生じているとともに、近代化・平準化の中でわが国固有の誇りある文化の風化が危惧されているところです。

一般的に、シルク製品は、養蚕、製糸、織物、染色など多段階の工程の中で、それぞれに長年にわたって極められた究極の技術が、完璧なまでに調和され完成されます。またそのものづくりは、技術者同士の厚い信頼と連携の上に成り立ち、日本が誇るものづくりの原点ともなっています。さらに、世界においてもシルクは、かつてシルクロードという長大な交易ルートを創造し、産業を活性化するとともに東西文化の交流を育んできています。すなわちシルクは、単なる繊維素材ではなく、歴史的にも経済社会の様々な断面を相互に発展に導く共通のきずなであり、今後においてもシルクを通じた「連携」「国際展開」「産業活性化」「文化交流」などによって、様々な分野の未来に多くの示唆と可能性を与えてくれるものであると確信します。

こうしたシルクの持つ意味を改めて認識し、シルクに関連する産業、またはシルクに関係する歴史・文化を持つ市区町村が連携し、「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」など、シルクの意味を活用して新たな展望を切り開くため、「シルクのまちづくり市区町村協議会」を設立します。

平成２２年１月２６日

「駒ケ根シルクミュージアム」（長野県駒ケ根市）

「小山きものの日」（栃木県小山市）

「絹のみち広域連携プロジェクト」（関東経済産業局）

編集／発行　　シルクのまちづくり市区町村協議会

発 行 年 月　　平成２７年３月

【この情報誌に関するお問い合わせ先】
シルクのまちづくり市区町村協議会事務局
（京丹後市商工観光部商工振興課）
〒629-3101　京都府京丹後市網野町網野 353 番地の 1
TEL：0772-69-0440／FAX：0772-72-2030
メール：shokoshinko@city.kyotango.lg.jp
ホームページ：http://www.kyotango.net/silk/index.html
ブログ：http://silk25.blog.fc2.com